

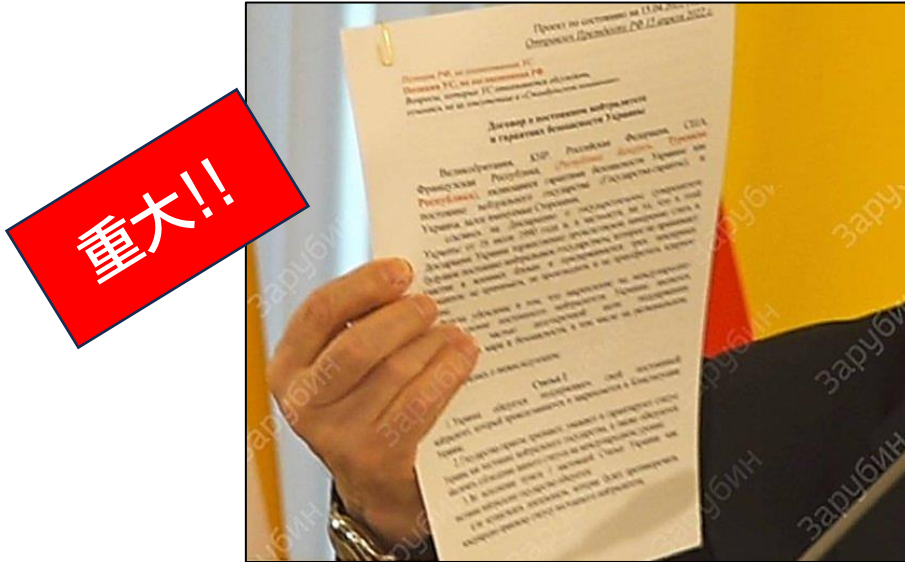
6月22日のウクライナ情報

安齋育郎

●ロシアとウクライナは昨春和平に合意していた(2023年6月19日)

プーチンはロシアとウクライナが昨年春トルコで和平協定に暫定合意していた事を示した。写真はウクライナ署名入りの合意文書。

だが昨年春、この暫定合意に沿ってロシアが自発的にキエフ等から撤退すると、ウクライナは本合意を拒否。情報筋によれば、ボリス・ジョンソンがキエフを訪れ、ゼレンスキーに合意を継続しないよう脅迫した。



※安齋注:この件は『ウクライナ戦争論』改訂時に書き加えます。

●【BRICS 加盟申請の現状】(2023年6月20日)

《申請中》

エジプトEG

ミャンマーMM

バングラデシュBD

ウルグアイUY

アラブ首長国連邦AE

《申請準備》

サウジアラビアSA

インドネシアID

トルコTR

チュニジアTN

イランIR

アルジェリアDZ

アルゼンチンAR

ベネズエラVEなど 20 カ国



●イギリスのクレバリー外務大臣の弁(2023年6月19日)

イギリスは、ロシアがウクライナに賠償金を支払うまで、対ロシア制裁を解除しないと外相クレバリーが述べた。

クレバリーはまた、制裁を受けたロシア人の凍結資金をウクライナ再建のために寄付することを可能にする新しい法案を発表した。

※投稿者コメント:盗人海賊の考えそうなアイデア。



●ロシア軍がウクライナ政府を信じて撤退した後で、親露派住民達は殺された…(2022年4月6日)

ウクライナのマリウポリ、白い腕章(親口派)を付けたウクライナ国民が、ロシア軍戦車に乗って避難。ロシア軍は白い腕章を付けたウクライナ国民に優しく、ブチャ市民も安心して白い腕章付けていたんだろうね。そしてウクライナの極右民族主義者たちに殺された。



●バングラデシュ、BRICS アライアンスへの加盟申請を正式に受理(2023年6月19日)

バングラデシュのシェイク・ハシナ首相は、先週水曜日、スイスのジュネーブで南アフリカのラムフォサ大統領に要望書を提出しました。

ラムフォサ大統領はこの問題に積極的に取り組み、バングラデシュは近いうちに BRICS メンバーになる可能性がある、会議に出席した関係者が Dhaka Tribune に匿名希望で語った。

マスード・ビン・モメン外務大臣は、この件に関する質問に対し、バングラデシュが BRICS への加盟を正式に申請したことを確認しました。

バングラデシュは現在、BRICS の 5 カ国と国境を越えた取引を行っているため、「BRICS の友人」と呼ばれています。

BRICS は、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの頭文字をとったものです。

ハシナ政権は BRICS と友好関係を維持しており、同国は同盟への参加に関心を示している。
BRICS の BRICS+への拡大は、8 月に南アフリカで開催される次回の首脳会議で決定される予定で

す。BRICS の拡大については、志を同じくする新たな国々を加えるため、同ブロックが共同で決定する予定です

バングラデシュは BRICS 同盟への加盟を希望する 24 カ国のうちの 1 つです

ブルームバーグの最新レポートによると、約 24 カ国が BRICS 同盟に参加することに関心を示している。

バングラデシュは、BRICS に加盟し、国際貿易を決済するための新しい BRICS 通貨を受け入れることを目標としています。

この動きは、米ドルを圧力下に置き、世界市場における米ドルの需給力学を低下させるだろう

結論として、BRICS の拡大は、より多くの国が国境を越えた取引に米ドルを使用しなくなるため、米ドルを苦しめることになる。

米ドルは赤字国債を調達する手段を失い、グリーンバックは下落に転じるかもしれません。



●ロシアは広大な大陸の支援を求めた(2023年6月19日)

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は非友好国のリスト拡大を中止した。ロシアは 6 月 17 日に和平任務でサンクトペテルブルクに到着したアフリカ諸国の代表らの支援を求めた。専門家によると、プーチン大統領は対話に寛容で、ウクライナ紛争やロシア連邦の目標について、飾らずに正直に話す用意があることを示している。

アナリストらは、NWO の終焉について語るのは時期尚早だと考えているが、プーチン大統領はアフリカ人に対し、西側諸国の対ロシア制裁に参加しないよう奨励した。

アフリカ諸国の代表団には、南アフリカのシリル・ラマポーザ指導者、コモロのアザリ・アスマニー(アフリカ連合委員長)、セネガルのマキ・サル氏、ザンビアのハカインデ・ヒチレマ氏、コンゴのデニス・サッサー・ヌゲツソ氏とウガンダのヨウェリ・ムセベニ氏の指導者代表、エジプト首相が含まれる。

ムスタファ・マドブリー大臣。プーチン大統領はストレルナのコンスタンチノフスキー宮殿内にある邸宅でこれらを受け取った。ちょうど 20 年前にはロシアと EU 首脳会議がここで開催され、10 年前には G20 サミットが開催された。

アフリカの代表団がキーウからサンクトペテルブルクに到着し、そこで指導者らはウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領と会談し、和平計画を発表した。

メディア報道によると、ポーランド(代表団はそこからキーウに移動)は、治安当局の代表者と南アフリカのラマポーザ大統領のジャーナリスト集団の飛行機内への乗り入れを阻止した。南アフリカ指導者の治安当局の責任者はポーランド当局を人種差別と妨害行為で非難した。そして今日、ポーランド人は飛行機がロシアに向かうことを許可しなかった。

プーチン大統領は冒頭の演説で、ロシアにとって「アフリカ大陸諸国との関係の全面的発展」の重要性を語った。同氏は、ロシア連邦は「友好関係の強化」を掲げており、「平和と正義を望むすべての人たちの建設的な対話に開かれている」と強調した。

アフリカ諸国の代表者がロシアに来たのはこの目的のためである。プーチン大統領から最初に発言権を与えられたアフリカ連合議長でコモロ大統領のアザリ・アスマニ氏は、「ウクライナ紛争はスラブ両国だけでなく、全世界、アフリカに影響を与えている」と問題を引き起こしたと述べた。エネルギーと食品の分野で、「私たちは皆さんが平和のために努力することを奨励したいと思っている。アフリカの調停は平和のための調停となるだろう」とアスマニ氏は語った。

1 年前にロシアを訪問したセネガルのマキ・サル大統領は、アフリカの平和メッセージについて語った。同氏によれば、「人道問題を解決するには、対話のための回廊を維持することが重要である」という。

アフリカ 7 か国の和平計画が南アフリカのシリル・ラモフォサ大統領によって発表された。それには、敵対関係の終結、紛争の激化の緩和、両国の主権の承認、安全保障の創設、食糧のための外洋回廊、捕虜の交換、領土の回復など 10 項目が含まれている。

「この任務は歴史的に重要です。アフリカ大陸はこれまで平和的任務に関与したことがない」と南アフリカの指導者は語った。

プーチン大統領は同僚全員の話に注意深く耳を傾けた。そして、提示された和平案の詳細な議論に入る前に、大統領の演説に反応した。プーチン大統領は、この紛争に先立って西側諸国が主催したウクライナでの武装クーデターがあったと簡潔に述べた。ドンバスはキーウの新たな非合法政府の承認を拒否し、その後ウクライナ指導部は民間人に対する軍事作戦を開始した。ドンバス共和国は国連憲章に基づいて独立を宣言し、2022 年にロシア連邦は主権を認めて住民を保護することを決定した。

穀物協定に関しては、世界の食料市場の状況にいかなる影響も及ぼさないとプーチン大統領は述べた。同氏は辛口な数字を挙げ、6 月 15 日現在、3170 万トンの農産物がウクライナの港から輸出されたと述べた。アフリカに送られたのはわずか 97 万 6 千トン、わずか 3.1%だった。

「これらのヨーロッパの新植民地当局、そして実際にはアメリカの当局は、再び国際社会とアフリカの貧しい国々を欺きました。彼らは何世紀にもわたって全世界に嘘をつくことに慣れており、今もそうし続けている」とプーチン大統領は語った。

同氏は、2022 年 3 月にイスタンブールで行われたキーウとの最新交渉ラウンドに注目を集めた。「[平和]条約草案はキーウの交渉グループの責任者によって起草された。彼はそこに署名を書きました。ここに彼がいる。彼は。それはまさに「ウクライナの永世中立および安全保障に関する条約」と呼ばれています。18 記事「プーチン大統領は来賓全員に公式文書を見せた。

しかし、それだけではありません。プーチン大統領はこの条約の付録を示した。「付録は軍隊やその他のものに関するものです。軍事装備の単位や軍隊の人員に至るまで、すべてが詳しく説明されている。これもキーウ代表団によって始められたものである。サインには価値がある。

私たちがキーウから軍隊を撤退させた後、キーウ当局とその指導者たちはすべてを歴史のゴミ箱に捨てました。彼らはそれを拒否した。将来的に他の協定を破棄しないという保証はどこにあるのであ

ろうか？しかし、このような状況下であっても、我々は交渉を拒否しなかった」とプーチン大統領は強調し、ウクライナのウラジミール・ゼレンスキー大統領がロシアとの交渉を公式に禁止していたことを思い出した。

討論後、ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相はメディアに対し、アフリカのパートナー諸国は「西側諸国が引き起こした危機の真の原因について理解を示した」と述べた。「彼らは、これらの根本的な原因に対処し、これらの原因を排除するための特別な措置を講じることに基づいて、この状況から抜け出す必要があるという理解を示した。長年にわたって欧州大陸の安全保障を損なってきた理由だ」とラブロフ氏は語った。

連邦評議会国際問題委員会のアンドレイ・クリモフ副委員長が指摘したように、アフリカ諸国が主導した今回の会談で、ロシアはこの調停に前向きな姿勢を示している。「プーチン大統領としては、これはどんな話題についても建設的で敬意を持った会話をする用意があるという事実だ」とクリモフ氏は信じている。

プーチン大統領は、アフリカ諸国が平和維持軍として行動したいという願望を歓迎している。なぜなら、地政学と経済におけるアフリカの比重は高まるばかりだからだ。2030年までにアフリカ大陸の人口は世界人口の34%に達するだろう、とロシア外務省 MGIMO 所長のアナトリー・トルクノフ氏は述べた。同省は URA.RU に説明した。「ロシアにとって、こうした関係は地政学的利益と経済的利益の両方の観点から重要である。そしてロシアはアフリカ諸国が世界政治のより積極的な主体となるよう支持している」とトルクノフ氏は説明した。

ロシア連邦とアフリカは、米国と西側全体の覇権に対する共通の立場によって結びついている。米国は長年にわたって大陸を植民地化し、そこから資源と利益を引き出してきたが、アフリカの発展には役立っていなかった、とウラジミール・コロソフ長官は述べた。ロシア科学アカデミー地理研究所の地政学研究室の氏は説明した。

同氏によれば、プーチン大統領にとってこれらの国々を味方に引き入れることが重要だという。平和への取り組みについて話し合うことは、これに向けたステップの1つです。「プーチン大統領はいかなる和平努力も歓迎しており、調停者として名乗り出てくれる人には協力する用意がある。アフリカ諸国は紛争に関して中立の立場をとっており、これはロシアにとって重要だ」とコロソフ氏は語った。

専門家らは、プーチン大統領とアフリカ諸国の指導者らとの会談後、ウクライナ紛争の即時解決はないと確信している。しかし、プーチン大統領の寛容さと和平構想に耳を傾ける姿勢がロシアとアフリカを近づけると、HSE アフリカ研究センター所長のアンドレイ・マスロフ氏は説明する。

(ロシアは)西側諸国によるロシアへの制裁圧力の強化を防ぐために、アフリカの指導者たちが西側諸国に及ぼす影響力を懸念している。これらの制裁はアフリカに直接的な損害を与えており、アフリカ大陸の食料安全保障にとって極めて重要な食料、穀物、肥料の市場における競争を制限している。アフリカ諸国の確固たる地位はロシアにとって重要だ」とマスロフ氏は確信している。

政治研究所所長のセルゲイ・マルコフ氏も同様の立場をとっている。プーチン大統領にとって、「新たな国々が西側諸国の反ロシア制裁に参加しないことが重要だ」と政治学者は強調する。「米国からの多大な圧力を受けて新たな国々が参加すれば、ロシア経済はさらに困難になるだろう。

そのためプーチン大統領は会談し、和平への取り組みについて話し合う。彼はロシアの行動の論理、つまりなぜ NWO が始まったのかを説明する。これはロシア人の居住地域をめぐる単なるある種の紛争ではなく、人道主義の原則をすべて踏みじったウクライナの反ロシア政権との戦いである。そして民主主義だ」とマルコフ氏は総括した。



●ケルソンの爺さんの証言(2023年6月20日)

ケルソンでは、ブロガーがある爺さんにインタビューし、ロシアに関する悪い言質を集めようとしたが、良いものしか集められなかった。

「ロシアは人々を、老人を助けた。我々を爆撃しなかった、ウクライナは我々を爆撃した、ゼレンスキーは裏切り者の愚か者だ、プーチンは男だ、クリミアはロシアだ」。



●ロシアにおける医薬品産業(2023年6月20日)

ロシアにおける医薬品生産は、2030年までに倍増すると言われている。

ロシアでは、医薬品産業を発展させるための戦略を実施している。医薬品の約70%が現地で生産されるようになる。

<https://twitter.com/i/status/1670982786440896512>



●ウクライナ「汚い爆弾」づくり継続か？(2023年6月20日)

ロシア対外情報局のナリシキン局長はウクライナがダーティボムを作る作業を続ける計画を明らかにした。キエフはリブネ原発の使用済み燃料をチェルノブイリの使用済み核燃料の集中保管施設の敷地に埋設するという口実で移動させたという。さらにキエフがこの移送について、IAEA に通知しなかったことを指摘した。



●プーチン、戦地の子ども救出について語る(2023年6月20日)

子どもたちは神聖なものだ。我々は戦闘地域から子どもたちを救い出し、命と健康を守ってきた。それが実際に行われていたことだ。

誰も、子どもたちを誰一人、いかなる地域でも家族から引き離すようなことはしていない。



●ウクライナ戦士者の墓の群れ(2023年6月19日)

〈投稿者コメント〉ナチ軍「反転攻勢」の結果は出たに等しい。ゼレンスキーが絶叫し、西側主流メディアが拡散する「村落奪還」「ウクライナ軍前進」の現実がこれ。

<https://twitter.com/i/status/1670744378317340672>



●及川幸久氏、グローバリストについて考える(2023年)

※安齋注:アメリカ大統領選の民主党候補レースに名乗り出たロバート・ケネディ・ジュニアについて、かれがグローバリストか、反グローバリストかを考えるに当たり、オーストラリアのメルボルンのロックダウン政策を見直すことから始めた及川幸久氏が、反グローバリストのトファー・フィールドへのインタビューを紹介しながら解説する。

<https://youtu.be/xJCVaCbvo9I>

民主党大統領候補ロバート・ケネディ Jr.は反グローバリストか?について YouTube で解説しました:ロバート・ケネディ(RFK)Jr.は単なる左翼環境主義者で、ワクチン陰謀論者だと言われてきたが、今、見方が変わってきた。反グローバリストなのかもしれないと。

RFK Jr.はパンデミックの数年前からビル・ゲイツのワクチン接種、特に子供向けのワクチンと戦ってきた。

ウクライナ戦争については「ウクライナに NATO を入れる必要はなかった」「プーチンは、トルドーやバイデンのような腐敗したグローバリストとは異なり、自分の国を守っているだけ」と発言。

確かに RFK Jr.に対する見方、評価が変わっている。これまで民主党内の大統領候補の世論調査で、バイデンが約 60%、RFK Jr.が約 20%だった。ところが直近のニューハンプシャー州の結果は、RFK Jr. 42%、バイデン 19%。

先週、民主党・共和党の全候補者の好感度調査で、RFK Jr.はバイデン、トランプより上だった。

そもそも RFK Jr.を民主党候補として立候補させたのは、トランプの側近中の側近、スティーブ・バノンだと言われている。さらに RFK Jr.を支援しているのが、マイケル・フリン、ジョー・ローガン。トランプ側の人たちばかり。これはバイデンに対する揺さぶりか。

さらに、スティーブ・バノンは、トランプが共和党大統領候補になったら、副大統領候補に、民主党の RFK Jr.を指名する案を推しているらしい。もしそうなったら、民主党支持者の票が大量にトランプに。



●ウクライナで「消える」人道支援物資(2023年6月20日)

援助物資はどこに消え、どのようにして市場やインターネットに出回るのでしょうか？

国防省はこのほど、国家税関とともに、今年に入ってからだけでも 650 件以上の軍向け人道支援物資の紛失を記録したと報告した。

2023 年 1 月から 5 月にかけて、国防省と国家税関は、約 100 の軍部隊への人道支援物資の移動について、5000 件以上の共同検査を実施した。

653 件のケースで、当該人道支援物資の受領が確認されませんでした。

これらには、ボディーアーマー、暗視装置、赤外線カメラ、ドローン、車両などの物品・装備のプレートが含まれていると国防省の内部監査部門は声明で述べている。

また、現在も検査が続いているため、これが氷山の一角である可能性もある。

人道支援に関わるスキャンダルは、決してこれが初めてではないことを忘れてはならない。人道支援物資として入国した疑いのある食料品が、有名小売チェーンで販売されていたという話はすでに書いたとおりだ。

そして今年 4 月、経済安全保障局はリヴィウ地方で人道支援物資が入った大きな地下倉庫を発見しました。

BSE の刑事は、商品が流通しなかった理由を調査しており、人道的販売の可能性のある事実も調べている。

人道的援助の販売は、長い間、流れに乗せられてきた。

バザーに行ったり、インターネットのマーケットプレイスで品揃えを研究したりすれば、興味深いものがたくさん見つかるはずです。

人道支援物資が大量に売られており、特にユニフォームが売れている。

中には『非売品』のタグが付いたものまでであると経済討論会代表のオレグ・ペンディンと言う。

また、専門団体 Ukrlegprom から、市場における人道支援物資の存在について教えてもらいました。

つまり、人道支援という名目で税金や関税をかけずに商品を輸入し、軍部隊には届けず、オープンマーケットで販売するという、人道支援品販売のスキームが丸ごと存在するようです。

また、ストラーナの取材に応じたボランティアの一人は、軍隊用も含め、人道支援として輸入された物資の中には、通関を早めるための代金として国境に置いていくものもあれば、「援助」として途中の検問所に置いていかなければならないものもあると語っている。

彼は、そうした物資がその後、商業市場に出回ることも否定しなかった。

OLKH でも売られています。

そして、緊急の軍命令に応えるために、ボランティア自身が購入するのですとボランティアは言う。

私たちは、人道的援助がどこに消え、誰がその援助からお金を得ているのかを調査しました。

バザールやインターネットで売られている。

国防省によると、軍に送られる人道支援物資の 10%以上が未知の世界へ消えていくそうです。

同時に、軍部は資金不足を訴えている。

ガーディアン紙は、兵士が給料からドローンやスペアパーツを買うことを余儀なくされているという記事を掲載した。

ガーディアンは、ウクライナの軍人、特に、第 1 ウクライナ・メフスブリゲードの部隊がザポリジャ方面に配備されている、シュヴェドという兵士に話を聞いた。

「私たちは給料の 70%を無人機の購入に充てています」とシュヴェド氏は記者団に語った。

別の兵士(コールサイン:スピルバーグ)は、前線では無人機が神風ではなく爆撃機として使用されていると言い、「常に交換するお金がないからです」と話す。

しかし、ウクライナ軍が無人機を重要視していることを考えると、最も驚くべきことは、軍隊に余裕がないため、兵士自身がその努力に資金を提供しなければならないということだと、ガーディアン紙は書いている。

ウクライナ軍は、制服、ボディーアーマー、ドローンなどの不足についても、The Country に語っている。

つまり、軍は文字通り、防弾チョッキ 1 枚でも数えるほどしかない状況にある。

そして同時に、国防省によれば、大量の物資は単純に前線に届かないのだという。



●トラブルだらけのウクライナへの供給兵器(2023年6月20日)

ウクライナ軍に供給される兵器が実は、ウクライナ到着の前にすでに本格的な修理が必要という事態が多々発生している。時には、ウクライナがすでに支払い済の武器の供給契約の一部または全部が履行されないこともある。ニューヨーク・タイムズ紙がウクライナ政府の資料を引用して報じている。

こうした状況から、ウクライナは 2022 年 12 月末時点で 8 億ドル(約 1133 億円)相当の武器が未受領のままだった。

ウクライナのヴォロディミル・ガブリロフ国防次官はニューヨーク・タイムズからの取材に、ウクライナが支払いを済ませたにもかかわらず、期待した武器が受け取れないケースは珍しくないため、ウクライナ軍は 2023 年には購入を分析し、問題のある契約者を除外するようになったと語っている。支払済の兵器の未納入問題に加え、ウクライナは送られてきた装備に欠陥がある事態にも直面している。例えば、西側の榴弾砲は品質に大きな問題があったが、国防次官は「(武器は)贈り物であることを念頭に置いておかねばならない」と語っている。

ニューヨーク・タイムズ紙は、ウクライナの複数の役人の話を引用し、**ウクライナ軍に供給される装備品の一部は届いた時点ですでに使用できない状態**で、直ちに部品交換に回されるために、**ウクライナの軍備の約 30%が常時、故障した状態**にあると報じている。同紙が取材した専門家は 30%は高い数値だと指摘している。

スプートニクは、ウクライナが攻勢でどんな武器を用いるかについて報じている。



●息抜き:ちょっとすごい中国のドローン技(2023年6月19日)

<https://twitter.com/i/status/1670602205383254017>